

2023年夏季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：2年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

〈留学の目的〉

日本語が当たり前ではない環境で、見る・聞く・話すの3点を意識しながら過ごし、会話力やリスニング力を向上させること。また、日本とは異なるフランスの文化を実際に体感しながら理解すること。



〈留学生活の様子〉

フランスには、一度も行ったことがなかったので、行くこと全てが新鮮でした。買い物の仕方や、レストランでの注文・お会計の仕方、バスの乗り方など日本とは異なっている事がたくさんあり、初めは戸惑いながらの日々でしたが、慣れていくにつれ、トゥールに住む方々との何気ない会話もと楽しめるようになりました。また、ホームステイ先では、フランスの伝統料理について教えてくださったり、わからない単語の意味を説明してくださったりしました。一ヶ月間ではありましたが、言語を学ぶと同時にフランスの新たな魅力に気がつくことができました。例えば、知らない人でも目があったら挨拶したり、バスに乗るときや買い物をする時などに必ず感謝をしていたりすることは、とても良い習慣だと思いました。



〈印象に残ったこと〉

海外の方々には、文法が間違っていたとしても自分の意見をはっきりと話しているのが印象的でした。授業では、先生が出したお題について、一人ずつ話すという場面があったのですが、私は初め間違ったフランス語で話すことを恐れて、意見と理由一つしか述べていませんでした。ですが、海外の方々には理由や具体例をたくさん述べており、楽しそうに話していました。それを機に、私も刺激を受け、少しずつですが変化することができました。また、買い物をしている時にトゥールの方によく話しかけられたのも印象的でした。お昼ご飯を買うためにパン屋さんに行った時には、列に並んでいたおじさんにこのパンがおすすめですと話しかけられました。他にも、友達とアイスを食べた時、隣に座っていた方に、なぜフランス語を学ぼうと思ったのか、フランスの好きなところはどこかなど、様々なことを聞いてくださいました。あまり、フランス語が上手くないにも関わらず、熱心に話を聞いてくださったので、トゥールの人達の優しさを感じることができました。

〈留学をして成長できたこと〉

まず、自ら話すことを当たり前にすることができました。例えば、授業で聞き取れなかったり、理解出来なかったりした際に、先生や海外の友人に自ら質問し、解決するという場面が多くありました。また、海外の友人とご飯を食べに行き、お互いの国のことや、趣味などについて話すことも日常でした。そのため、以前よりも少しではありますがフランス語を積極的に話すことができるようになったと思います。次に、課題解決力も身につけることができました。パリに行った際には、乗る予定だったバスがなかなか来なかった際に他の手段はないかどうか、調べ直したり、尋ねたりしました。ホームステイ先でも初めの方はルールを把握仕切れていなかったため、疑問に思ったことは必ず聞くようにしていました。それゆえ、今回現地実習で身につけた課題解決力は、今後の生活にも役立つのではないかと思います。

〈今後の目標〉

フランスでは、何かを聞かれても、なかなか理解できなかつたり、答えられなかつたりすることが何度もありました。そのため、今後は学校の授業以外でも、会話やリスニングの勉強を取り入れていけたら良いと考えています。また、現地実習では初めはクラスがB1でしたが、会話・リスニング・語彙のレベルが皆非常に高く、ついていくことができずクラスをA2に変更してしまったため、全ての技能において、B1に到達できるよう努力したいと思います。